

ミーちゃん



お茶



バイク



FUTA SAITO

メモ帳



AGE

21



6つのこと

齋藤 風太さんの

今号の表紙
杜の家なりた
施設福祉サービス部生活支援課
ケアサービスワーカー

動画



職場では犬のプリントものをよく着ているのですが、基本的には猫派です(笑)。7年前から家で飼っているミーちゃんは、猫らしい猫というか、マイペースで無防備なところにいつも癒やされています。休みの日はひとりバイクでツーリングに行くのが好きです。自由な時間で、気持ち良くて。最近の行き先は奥多摩とか鴨川とか。鴨川シーワールドは子どもの頃から大好きな場所で、いつかこういう水族館で働いてみたいと思うこともあります(笑)。

入職2年目、勉強しなきゃいけないことばかりで、介護を学べる動画をいろいろ観ています。現場では特に、入居者さんの小さな変化を見落とさないため、たとえばお茶出しの際に表情や仕草を注視するようにしています。気づいたことをすぐ記録したり見返したりするのにメモ帳が便利で常にポケットに入れていますが、入職時から使っていて余白もなくなってきたので、2冊目を検討中です。

鴨川シーワールド





香取市に仕事で恩返し

ケアマネージャー 大木直美さんインタビュー

text

 杜の家くりもと
 鵜ノ澤 里彩


大木直美さん(52歳)は、千葉県香取市の自然豊かな環境で生まれ育った。大好きだった祖母が認知症となり、自分の声だけでならお風呂に入ってくれた経験から、「人の支えになりたい」と介護の道を志した。家事や育児を両立しながら働くなかで、家族や友人、職場の仲間、地域の人々に支えられた経験を通して、より生活に寄り添える“ケアマネージャー”を目指すようになった。デイサービスなどで介護職員として勤務しながら資格を取得し、生まれ育った香取市の人たちを支えたいとの思いで、2015年、「杜の家くりもと」に入職した。

現在はデイサービスや地域の人たちと開催している「ごはんの日」を中心に、介護や生活に不安を抱える人の架け橋として活躍している。そのなかで、「人生の先輩方に常に勉強させてもらえることが楽しい」と笑顔を見せる。「杜の家くりもと」は四季折々の草花や野菜に囲まれ、この地域ならではの温かさを感じながら働けることに喜びを感じているという。不安のなかにある人が安心して話せる存在となり、一瞬でも一緒に笑顔になれることがやりがいだ。

今後は、「若い世代にもケアマネージャーの魅力や地域と関わることの楽しさを伝えたい」と語る。多忙ななかでも柔らかな笑顔を絶やさず働くその姿は、まさに天職に見える。その背中を追ってケアマネージャーを目指す若者が増えることと、大木さんの今後の更なる活躍を楽しみに思う。



地域を車で走り回り、利用者さんのもとへ向かう日々



林春枝さんご家族インタビュー

“開かれたケア”が生む、自由で穏やかな毎日

text

 実 叡パークサイド
 宮内 勝利


左から娘の綾子さん、春枝さん、職員の宮内さん

林春枝さん(94歳)は、2025年3月から「実 叡パークサイドテラス」で暮らしている。認知症の進行で一人暮らしが難しくなり、娘の綾子さんの出張中は老健を利用していたが限界を感じた。いくつかの施設を見学したものの、「どこも病院のようで閉鎖的。まるで軟禁されるみたい」と感じたという春枝さん。外出好きな性格に合う場所を探していたとき、ポストに入っていた「実 叡パークサイド」のチラシで福祉楽団を知った。「制度のスキマをフォローし、これからの福祉をつくる」という理念に共感し、建設中にもかかわらず「ここなら」と信じて入居を決めた。

暮らしが始まり「ケアコラボ」で情報が共有されると、一人ひとりに丁寧に向き合う姿勢に「いくつもの施設を見てきたからこそ、

この良さが分かります」と綾子さんは語る。「以前は出張と介護の繰り返しで、つい厳しい言葉を交わすこともありましたが、でも今の“ちょうどいい距離感”が、お互いを思いやる余白を生んでいる気がします」と綾子さん。

春枝さんは体を動かすことが大好きで、以前はヨガのインストラクターを務めていた。毎年ご家族と旅行を楽しみ、今年9月には草津温泉に行った。

これからしたいことを尋ねると、「天気の良い日に、外をぐるぐる歩きたい」と笑顔をこぼす。春枝さんの生活が“動くこと”を通してさらに彩られていくこと、そしてその時間に関われることを嬉しく思う。今後も期待を裏切らないケアを実践できるようにがんばりたい。



草津温泉に行った時のご様子



インドから初の介護人材が入職 「特定技能」のビザで介護福祉士を目指す

text

コーポレート統括部
アンニサ サキナ



中央の3名が入職者で、左からジェシカさん、ジェニファーさん、プリヤンカさん

2025年7月、「実籾パークサイド」にインド国籍の介護人材3名が入職しました。インドでは近年、人口増加とともに「日本で働きたい」という若者が増えています。特定技能による介護分野での就労はまだ少なく、2025年時点で全国でも250人ほどといわれます。私たちは今後3年間、継続的に採用を行う予定です。

採用にあたっては、2024年9月に現地で約50名の若者を面接し、8名を内定しました。全員が強い意志と明確な動機をもっており、特に「明るさ」「表情」「あいさつ」など、最初の印象が良かった人が選ばれました。仕事に向き合う姿勢は、こうした

基本的な態度が大切だと、あらためて実感しました。

3名は現在、グループホームで勤務しながら週1回の日本語レッスンに励み、「介護福祉士」の取得を目指しています。まだ会話には苦勞もありますが、前向きで、学びを楽しむ姿勢が印象的です。レクリエーションではYouTubeでインドの音楽をかけて踊るなど、文化交流の場面も生まれています。入居者さんは「新しい文化に触れられてうれしい」と笑顔を見せたり、「海外トーク」で盛り上がったりすることもあります。今後は、入居者さんから日本語を教えていただく予定です。

介護の現場が、言葉と国境を越えた学びと交流の場になりそうです。お互いに支え合いながら成長する姿は、“多様であること”が“可能性を広げること”につながると実感させてくれます。



インドでの採用面接の様子



ASEAN 諸国からの視察を受け入れ 福祉楽団の理念は国際的な方針とも重なる

text

杜の家なりた
青木さとみ



10月28日から30日にかけて、「第23回ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合」が成田市で開催されました。この会合は2003年から毎年行われており、ASEAN 10か国に日本、中国、韓国を加えた13か国の行政官が、社会福祉・保健医療・雇用政策について意見交換を行う国際会議です。今回のテーマは「高齢化社会に向けた持続可能な社会づくり」。29日には、タイ、ベトナム、ブルネイ、マレーシア、ミャンマー、インドネシア、中国の行政官20名が「杜の家なりた」を視察に訪れました。参加者は、市内の多様な医療・福祉サービスを見学し、在宅から施設まで一体的に展開され



午前と午後の2回に分けて来訪された

る日本の高齢者介護の特徴を学びました。「杜の家なりた」では、高齢者・障害のある人・子どもが共に生活するケアの実践や、「ごはんの日」など地域との交流を紹介し、活発な意見交換

が行われました。

会議の主題の一つであるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(すべての人が必要な医療・福祉サービスを、負担可能な費用で受けられる状態)の実現には、一人ひとりの力を引き出す支援が欠かせません。「すべての人の可能性を広げる」という法人理念が、国際的な方針と重なることを実感しました。

前日の懇親会では、「各国の人と人が、心で結ばれることを願って」との挨拶がありました。今回の会合を通じ、福祉の未来を担う人々が国境を越えてつながり、「杜の家なりた」の実践が各国の政策づくりに少しでも役立てられれば嬉しく思います。私自身にとっても、日々のケアを世界へ伝える貴重な経験となりました。



通訳を入れて、約1時間かけて案内した

福祉楽団の理念に沿った良いケアの実践 「ガクダンアワード」を開催しました！



コメントする金井一薫先生



発表会場の様子

良いケアの実践を共有し、法人全体のケアの質を高めていくことを目的に、毎年「ガクダンアワード」を開催しています。第8回となる今回は、2025年9月8日（月）に浦安市内のホテルで開催しました。当日は、外部の有識者も審査員として招へいしています。1次選考を通過した8組の職員が登壇し、それぞれが理念に基づいたケアの実践について、熱意をもって発表しました。

ガクダンアワード

応募件数 29件

応募職員数 28名

◎ ノミネート者（発表者順）

西山 みち子さん	栗源事業部	「日本初！？みちザップ」
中村 麻里さん	地域ケアそうか	「～ふつうに生きられるようになりたい～ Bさんのふつうの暮らしを探して」
林 有子さん	杜の家くりもと	「リレーのごときご家族とこさんの最期」
蛭田 遥香さん	香取CCC	「“困った人”は“困っている人”」
上地 智宝さん	杜の家くりもと	「安心する暮らし」
田窪 理恵さん	杜の家やしお	「自分らしく最期まで生きる」
近藤 春佳さん	杜の家なりた	「ふつうの家事なら、できます」
中村 達也さん	実初パークサイド	「あの人からお母さんに戻るまで…」

最優秀賞



西山 みち子さん / 栗源事業部

就労生活支援課 ケアサービスワーカー
看護師 入職3年目

優秀賞



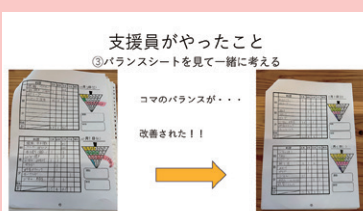
中村 麻里さん / 地域ケアそうか

事業部長
社会福祉士・介護支援専門員 入職18年目

「日本初！？みちザップ」 結果にコミットした支援事例

Aさん（30代・男性）は就労継続支援A型の利用者と、発達障害と機能的自閉症があります。身長152cm、体重85.7kgと、健康面が課題でした。そこで、食事改善の支援をスタート。まずは朝食を写真に撮ってもらい、一緒に振り返ることから始めました。食事のカロリーを見える化したり、バランスシートに色を塗って栄養バランスを学んだり、楽しみながら「見える支援」を心がけました。そのなかで、大好きなウインナーを1日8本から3本に減らし、夕食後にすぐに寝てしまい夜中3時に起きる習慣を、食後3時間は起きて21時に寝るように改善。ご飯日記も続けたことで、食への意識も高まりました。結果、体重は60.7kgへ減少。作業効率も

発表時のスライド

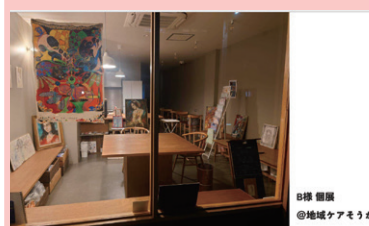


上がり、「自分でもできる」という自信につながりました。健康管理はたんなるダイエットではなく、「働き続ける力」や「自立して生きる力」を育む支援だと改めて感じました。

～ふつうに生きられるようになりたい～ Bさんのふつうの暮らしを探して

Bさん（40代・男性）は長年、薬物とアルコールの依存に苦しみ、仕事を失い、電気やガスも止まった状態で引きこもっていました。家族とも絶縁し、「お金が減る不安に耐えられない」と生活困窮の相談窓口に来られました。芸術一家に育ったBさんは、絵が上手で穏やかな方でしたが、依存症の影響で「ご飯が食べられない」「決断できない」といった状態にありました。私たちはまず“体の回復”に焦点を当て、一緒に食事をしたり、朝の掃除をしたりと、日常のリズムを整える支援から始めました。受診につなげることで少しずつ食事が摂れるようになり、表情や気力が戻ってきました。体調が整うと得意の絵を通して地域とのつながりが生まれ、

発表時のスライド



ついには個展を開くまでに回復。地域の仲間もできました。今回の支援を通して、「体の健康が整ってこそ、社会参加の意欲が芽生える」と実感しました。

特別賞



林 有子さん / 杜の家くりもと

生活支援課長 兼 看護師チームリーダー
看護師 入職22年目

特別賞

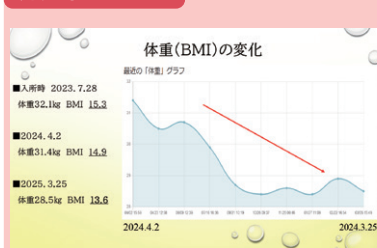
う え ち ち ほ
上地智宝さん / 杜の家くりもと生活支援課 ケアサービスワーカー
社会福祉士・介護職員初任者研修修了 入職2年目

リレーのごとき

ご家族とCさんの最期

Cさん(90代・女性)はご自宅で娘さんと暮らしていましたが、老健施設を経て2023年に「杜の家くりもと」へ入居されました。当初はスプーンでゆっくりと食事をされていましたが、次第に身体機能が低下しました。入居から1か月後、体調の変化をきっかけに1度目のターミナル面談を実施。ご家族は「点滴をすべいか」「自然な最期を迎えるべきか」と悩まれましたが、話し合いを重ね、「苦痛の少ない穏やかな時間を」との思いが一致しました。2025年4月中旬から経口摂取が難しくなり、ご家族は「最期は必ず誰かがそばに」と話し合い、日替わりで面会にいられました。最期の瞬間も娘さんに見守られ、穏やかな表情で旅立たれました。看取りには人と人、横のつな

発表時のスライド

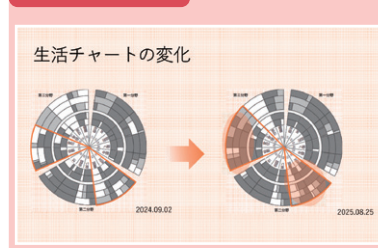


がりを強くしたり、次の代へと命をつなげていく、そんな力があると感じました。ご家族と職員が思いをつなぎ、支え合いながら納得のいく看取りを実現できたことは大きな学びでした。

安心する暮らし

Dさん(80代・女性)のケアを通じて、“人の役に立つことが生きがいにつながること”、そして“認知症が進んでもその人らしい暮らしを描けること”を学ばせていただきました。入居当初のDさんは、表情も乏しく毎日「家に帰りたい」と言われ、ご自分の意志と身体機能が伴わず転倒を繰り返していました。私はDさんが「やりたいこと」を探るため、本人と会話をしていくことで、かつてホテルで調理の仕事をしていたことを知りました。そこで、夕食の盛り付けや配膳をお願いすると、表情が明るくなり笑顔が見られるようになりました。さらに掃除や洗濯物をたたむことも手伝ってくれるようになり、「やりたい」という思いが、誰かのために「やってあげたい」という思

発表時のスライド



いに変わっていったようでした。今後も、入居者さん一人ひとりのライフヒストリーを知り、その人らしい暮らしを考えたケアを実践してゆきたいと思います。

外部審査員講評 >>

かない ひと え
金井 一薫さんナイチンゲール看護研究所
所長

どの発表にも「チームの力」が感じられました。職種や事業所の枠を越えて、お互いに相談し合い、支え合いながら取り組んでいる姿勢が伝わってきました。こうした風土があるからこそ、福祉楽団全体としてケアの質が向上しているのだと思います。何より心に残ったのは、「利用者さんの変化」を丁寧に引き出していたことです。誰かを変える力とは何かを考えたとき、やはり「暮らしの中で整えていく力」が鍵なのではないでしょうか。治すのではなく、その人らしい暮らしを支える。その積み重ねが、いつの間にか大きな変化を生み出している。そんなケアの本質を感じました。



馬場 拓也さん

社会福祉法人愛川舜寿会
理事長

どの発表も素晴らしくて悩みましたが、印象に残ったのは最優秀賞の西山さんの発表です。トップバッターとしてのインパクトもありましたが、理論やデータに基づきながらも、「人」に向き合う熱意がしっかり伝わってきました。西山さんの支援には、結果にコミットする姿勢と仲間を巻き込む力がある。そうした姿を、若い職員たちもきっと背中を感じていると思います。ほかの受賞者の発表もそれぞれの想いや工夫が伝わり、どれも聴きごたえがありました。ガクダンアワードのような発表会が続いていくことで、これからも学び合い、刺激し合う文化が根づいていくことを願っています。



田中 伸弥さん

社会福祉法人ライフの学校
理事長

私たちは、制度や仕組み、手法などさまざまな知識を学びながら実践していますが、やっぱり根っこにあるのは「目の前の人をどう支えるか」ということだと、改めて感じました。どの発表にも「ケアの原点」が息づいていました。2年目の職員さんが基本的に忠実なケアを丁寧に積み重ねている姿があり、その延長線上に、受賞者の西山さんや中村さんのような深い実践があると感じました。いきなり大きな成果を出すことよりも、日々の暮らしを大切にケアの積み重ねこそが、福祉楽団らしさであり、未来につながるのだと思います。今日この場に立ったこと自体が挑戦であり、大きな一歩です。

COVER STORY

杜の家なりた 施設福祉サービス部生活支援課 ケアサービスワーカー

齋藤 風太さん

静けさに向き合うフィッシングと、風を切って走るツーリング。齋藤さんは休日に、その“静と動”の趣味を楽しんでいます。これら

の趣味もケアの仕事も、ご両親の影響を素直に受けたのだそうです。穏やかで真っ直ぐな人柄はケアにも表れ、福祉楽団の研修で学んだ理念や考え方が、自然に実践へとつながっています。



text

コーポレート統括部
原田 貴征



VOICE

ご利用者やご家族などからハガキやメールなどで寄せられた「声」に対して、職員がお答えします。

【 杜の家やしお／特別養護老人ホーム 】

ご意見

トイレの便座が故障しており、臭いが気になることがあります。清掃後はきれいな状態ですので、もう少し清掃の回数を増やしていただけるとよいと思います。

お答えします



英 りま
杜の家やしお
生活支援課長

ご不便をおかけし申し訳ございません。便座はすでに修繕を完了しております。今後は定期的な清掃が確実に行われるよう体制を見直し、より快適にご利用いただけるよう努めてまいります。

※掲載しているご意見の内容は個人情報の保護の観点から編集をしています。

視察の受け入れ

ご来訪ありがとうございます 【期間：2025年5月1日～2025年10月31日】

東京藝術大学(2名)、生活クラブ(10名)、植草学園大学(2名)、マックスバリュ(33名)、厚生労働省(4名)、東京大学大学院(10名)、千葉工業大学(1名)、千葉大学(6名)、韓国江原道江陵市敬老障害課(5名)、韓国仁川東区役所福祉課(7名)、韓国釜山市老人福祉協議会(16名)、ASEAN日本社会保障ハイレベル会合(20名)、ぶらいどらんど(5名)、野田市第三地区社会福祉協議会(24名)、明治国際医療大学(2名)、新潟愛宕福祉会(4名)、西東京市民生児童委員(21名)、ヤマト福祉財団(3名)、千葉県立小見川高等学校(2名)、香取市立栗源中学校(4名)、ヒガクラテス(8名)、千葉県海浜地域特別支援学校(16名)、印西市本埜地区民生委員児童委員協議会(18名)、柏市風早地区社会福祉協議会(34名)、明治大学専門職大学院(13名)、全国社会福祉協議会国際福祉協力センター(11名)、八千代市民生児童委員(16名)、イタリア政府障害者施策担当(18名)、空と海地蔵会(3名)、成田市立加良部小学校(11名)、柏市富里地区民生児童委員協議会(22名)、武蔵浦和地区社会福祉協議会(23名) ※順不同・敬称略

ご寄附をありがとうございました

【期間：2025年5月1日～2025年10月31日】

藤田敦子、渡辺恵理子、関口恒、辺見陽平、小田卓也、会田進、小澤綾子、菊田仁、タカハシズミ、横田正明、戸村宣良、麦屋高広、小川ティアギ賢人、中西一郎、佐藤義勝、野口明子、高久修一、田原明夫、高木達恵、木村利江子、家合勇夫、小松薫、岩田俊夫、竹屋綱英、堀澤伸、庄司悦久、本田貴男、馬上文司、天井響子、高橋マナミ、加島トシ江、原元利成、アビルマチコ、本橋新一郎、星川望、会田幸子、松原由美、山根三千代、碓氷典子、皆川真規、貴田美津子、特定非営利活動法人NPO共生、山口農場、草加市こども応援ネットワークPine、東京サンブライト株式会社、株式会社みのりや米店、地域団体MAP(香澄公園プレーパーク) ※順不同・敬称略

TOPICS

01 「杜の家なりた」修繕工事でご迷惑をおかけしております

ショートステイユニットの床下の給水管が破損し、緊急の修繕工事を行っております。ご利用者の皆様にはたいへんご迷惑をおかけしております。工事期間は、2026年3月頃までを予定しております。

02 OUR KIDS 基金のマンスリーサポートをお願いします

「子どもの可能性を最大に」をミッションとして、社会的養護の子どもの経験や学びを支援する基金です。月500円からご支援いただけますので、皆様のご協力をお願いします。ウェブサイトもリニューアルしています。

WEBサイトはこちら！



03 イタリア政府大臣らが恋する豚研究所を視察

2025年9月26日、イタリア政府のロカテッリ障害担当大臣やイタリアの障害当事者団体が恋する豚研究所を視察しました。しゃぶしゃぶを初めて体験する人も多く、ソーセージは「ドイツのものより美味しい」と感想をいただきました。農福連携の現場などを視察し、今後も交流していきたいと申し出がありました。

04 恋する豚研究所 年末のギフト、パーティーセット承ります

年末のギフトやご自宅でのパーティー用に恋する豚研究所のしゃぶしゃぶはいかがですか。ヤフーショッピングのほか、お電話での注文も承ります。

ネットでご注文



ヤフーショッピングからご注文いただけます

お電話でご注文



0478-70-5115